

## 講演 1(要旨)

# 理系と文系をむすぶ情報学教育

西垣 通

東京経済大学コミュニケーション学部教授・東京大学名誉教授

万人がスマートフォンを手にするようになったいま、時代は転換期を迎えている。社会の大半の制度や機構がコンピュータ情報処理をベースにするだけでなく、人間のものの考え方、価値観、コミュニケーションなどが情報処理と一体不可分になりつつあるのだ。

にもかかわらず、この国で情報教育は軽視され、情報学は体系としての統一性を欠いている。たとえば高校や大学教養課程では、情報教育と称して、代表的な市販ソフトウェア・パッケージの使用法を教育するだけのことも少なくない。これは論外としても、せいぜい、初等的なコンピュータ知識に加え、情報社会で生きるためのモラルやルールなどが断片的に教えられているにすぎないのが現状だろう。このままでは、この国から抜本的な情報技術革新のアイデアが出てくる可能性も低いし、望ましい情報社会が建設されていくことは難しいと考えられる。

いま強く求められているのは、理系の情報工学と文系の社会情報学をむすぶ「文理融合の情報学」である。さらに、その教育の普及である。しかし、残念ながら両者のあいだには学問的なギャップがある。これを解消するためには、まず、情報の根本概念に着目し、記号、意味、データ処理、アルゴリズム、メディア、コミュニケーションなどについて整理していく必要がある。そういう基礎的な情報学を踏まえて、体系的な情報教育を展開し普及させていくべきではないだろうか。

私は理系のソフトウェア研究者として出発したが、30歳代半ばから大学で文系の情報社会論にとりくみ、さらにその後、文理融合の大学院の研究室で基礎的な情報学を探究してきた。それらの研究成果が上述の目的に多少でも役立てば幸いである。